

## 平成30年度 第3回吹田市シティプロモーションアドバイザー会議 議事要旨

1 日時：平成31年2月1日（木）10：00～12：00

2 会場：吹田市役所 高層棟4階 特別会議室

### 3 出席委員

北詰 委員長（関西大学 環境都市工学部都市システム工学科教授）

森 副委員長（吹田青年会議所 副理事長）

佐賀 委員（吹田商工会議所 青年部専務理事）

伴 委員（サンケイリビング新聞社関西営業局北摂事業本部編集長）

大林 委員（ジュピターテレコム 関西メディアセンター池田事務所アシスタントマネージャー）

春貴 委員（市民ネットすいた 理事）

内海 委員（近畿経済産業局 通商部国際化調整企画官（頑張る自治体応援隊 大阪北部担当））

長谷部 委員（市民委員）

青木 委員（市民委員）

### 4 出席職員

畑澤部長、原山理事、熱田次長、田中参事、白澤主幹、高島主査、船越主査、四方係員

### 5 傍聴者

なし

### 6 案件

(1) 前回いただいた意見と市の考え方

(2) シティプロモーションワークショップ報告

(3) 平成30年度シティプロモーション冊子について

(4) 今年度の取組と来年度の展開について

### 7 主な意見等

（委員長）

これまで色々なご意見をいただきましたが、資料に対してご意見をいただければ吹田市のシティプロモーションに貢献できると思いますのでよろしくお願い致します。

【案件（1）について】

（委員）

前回、「国際化の視点」を冊子にも取り入れて、外国語の表記もしてほしいという意見をしたが、

その意見が書かれていない。またホームページに冊子を掲載するなど、冊子のデジタル媒体についても検討してほしい。

(事務局)

国際化の視点については資料1に追加する。また、シティプロモーションの冊子については、全てではないが英語表記したものを発行する予定にしている。また、来年度予算がつけば、冊子の内容を補完するシティプロモーションのホームページを作成する予定。

(委員長)

できるだけ負担をかけずに翻訳できる方法を模索していただければと思います。

#### 【案件(2)について】

(委員)

私も参加したのですが、参加された方はみなさん熱をもって話をされていて、2時間経ってもまだ話し足りないという感じだった。年に1回だけではなく、何回か開催してもいいと思う。

(委員長)

開催が年末の金曜日の夜だったので、他にも土曜や平日の昼間に開催すると多様な人が参加できるのでは。様々な開催日時を設定することで、バラエティ豊かな参加者が集まると思う。

(委員)

「シティプロモーションのPRツール」というテーマで話し合っているので、具体的な意見は資料からわかるが、吹田市全体のイメージや思いについて意見が出たのならどんな意見だったか知りたい。

(事務局)

元々、具体的で話しやすいテーマにしたほうがいいということで、このテーマを設定した。話し合っていて中で、イメージキャラクターのすいたんや吹田市自体について、みなさんに愛着を持っていただいているということを確認した。

(副委員長)

ワークショップで出たようなご意見について、市民自身が行う取り組みにつなぐことができればいいと思う。

#### 【案件(3)について】

(委員)

サイズやデザインについて、どのような意図で決めたのか。

(事務局)

B5サイズだが、通常はA4サイズが多いので、他と大きさを違いを出して目を引くものにしたかったことと、持って帰りやすさでB5にした。デザインについては、見やすい、すっきりとしたデザインで、ぱっと見たときに次のページをめくってもらうために文字をできるだけ少なくして写真を多用し、余白を残したものにしている。

(委員)

「Sbook」というネーミングは商標の点で問題ないか。

(事務局)

商標等について問題ないか確認する。

(委員)

色々なランキングが掲載されているが、国内で6位と書いてあるが、その場合、1位～5位はどんな自治体なのか気になる。府内だけでなく、全国的な吹田の位置づけが市民は、知りたいと思う。そういう目で見直されたいと思う。また、問い合わせ先を掲載してほしい。

(事務局)

問い合わせ先についてはシティプロモーション推進室を掲載する。

(委員)

冊子の最初にQRコードをつけて、外国語のページにとぶような仕組みもいいのでは。

(委員)

冊子以外の展開はあるのか。

(事務局)

来年度、予算がつけば冊子を基にシティプロモーション専用ホームページを作成予定。冊子では情報量が限られるので、情報を充実させ、詳細については各部署の事業のページにリンクを貼ったページにしたい。

(委員)

インターネットで情報を取得できれば満足する人もいる。また、「吹田市」と検索すればまず1番にシティプロモーションのページが表示されるようにして、広めれば良いのでは。

(委員)

すいたんの部分だが、キャラクター性の観点から、すいたんのSNS等としゃべり言葉を統一してほしい。

(事務局)

統一するように注意する。

(委員)

公園について、吹田市の大きな公園の名称が掲載されているが、万博記念公園の記載がない。管轄は吹田市ではなく大阪府だが、市内にある一番大きな公園なので入れるべきでは。市民にとって、どこが管轄かは関係ない。

(委員)

受け手の側に立って冊子作りをしてほしい。

(副委員長)

ツイッターやラインについての記載があるが、QRコード等でウェブ上のページにとべるようにするのか。

(事務局)

ウェブにつながるようにする。

(委員長)

子育て層をターゲットにするということだが、子育て層といっても様々。生まれたばかりの子

供から小学生の子供をもつ家庭まで、子供の成長過程でそれぞれの家庭が抱える課題は異なる。例えば大きな公園で遊ぶようになるのは少し子供が大きくなってからだが、小さいうちは近所の小さい公園で遊ばせることになる。それぞれの年齢の子供をもつ家庭に応じた内容になればいいと思う。全てを網羅することは無理だが、そういった視点を持って作成してほしい。

【案件（4）について】

（委員）

グッズを作成して販売すれば、収入は一般財源に入るのか。特別会計にすることはできないのか。

（事務局）

収入は一般財源に入る。吹田にぎわい観光協会でもグッズを作成できるかもしれないが、財源が限られている中で、新たなグッズを販売することは難しい。

（委員）

まず市が販売して、売れ筋商品ができれば、それを今後は吹田にぎわい観光協会で作成・販売するという手法もある。

（事務局）

まず市はきっかけとしてやってみる。無料で配る物と、お金を出して購入いただく物については愛着の度合いが違っているのでグッズ販売は今後も実施する予定だが、市がいつまでも全ての販売物を作成するのではなく、今はきっかけ作りだと考えている。

（委員長）

グッズ作成について採算は取れているのか。

（事務局）

今年度のすいたんマスコットでいうと、現時点でもグッズの作成経費と吹田にぎわい観光協会に支払う販売手数料の合計より、販売収入が上回っている状態。予算要求の際も、財源充当をするという形でグッズの作成費を要求している。

（委員）

SNS等ですいたんの露出が多かった1年だと思う。一方で、suitable city のロゴマークもあるが、すいたんと比べて露出が少なかったように感じている。せっかくなので、露出を増やすことを考えては。また、市民体育祭等、地域の行事で景品が配られることが多い。地域でグッズを購入する予算を持っているので、すいたんのグッズ等を購入いただいて、地域の人に愛着を持ってもらうように展開できればいいのでは。

（委員）

ゆるキャラグランプリには参加しないのか。また、地元のイベントにすいたんが参加して露出を増やすことで、地域の人に愛着を持ってもらえると思う。愛着を持ってもらえることでグッズも売れるのでは。

（事務局）

ゆるキャラグランプリには参加していないが、すいたんの着ぐるみの貸し出しは行っている。ほぼ毎週末、地域の様々な団体が着ぐるみを借りにきていただいている状況だ。

(委員)

グッズの提案を見ると、10~20代が使いやすい文房具が多いが、エコバックは需要が高いので、販売すれば大人の女性を中心に持ってもらえると思う。エコでお洒落なバックがあればいい。

(委員長)

企画してから販売までの期間にもよるが、レジ袋有料化の際にエコバックを作成できればタイミングとしてはよかった。予算をとって実現させるまで1年間かかると思うが。

(事務局)

今後も環境の部署がエコバックの配布や販売を実施する可能性があるので、その際は積極的に作成に関わっていきたい。

(委員)

防犯用の自転車の前かごカバーについても、すいたんのデザインがあれば嬉しい。シティプロモーション推進室が作成するのと、他部署や他の公的機関が作成する際にシティプロモーション推進室が関わって一緒に作成するということがあっていいと思う。

(委員長)

来年度の事業の一覧について、どう進める予定なのか等、各委員で質問があればどうぞ。

(委員)

NTT西日本との連携で、ICTを活用したプロモーションを進めていると思うがどうなっているか。

(事務局)

NTTとの連携協定は2018年1月~2019年12月までの2年間を期間としている。NTTの通信を活用したプロモーションを展開しようとしており、現在はプッシュ通知型情報発信アプリの開発を行い、実証実験を行う予定。ゴミ出しの日の通知や、防災情報として地域の避難地マップなどが見れるほか、子育て情報の通知が来るようなアプリを開発している。早ければ4月ごろにリリースできる。

(副委員長)

吹田市としてSDGsに対してどのような立場なのか教えていただきたい。

(事務局)

まだ具体的な動きはないが、市長はSDGsの17項目について意識をするように、と言っている。これから具体的な動きが出てくると思う。

(委員長)

SDGs未来都市に立候補してもいいと思う。立候補しなくても、SDGsについて市として積極的に取り組む姿勢が必要なのでは。

(委員)

広報課と連携して広報番組の情報をすいたんのSNSでも発信するなど、他部署と連携して情報発信してほしい。また吹田のグルメということをやっと言ってきているが、せっかくすいたんという食べ物のキャラクターがいるので、「食」の観点もプロモーションにいれてほしい。

(事務局)

すいたんのSNSは各部署から情報発信の依頼を受け付けている。今後も各部署から依頼をもらう形の情報発信にも力を入れていきたい。また食については、現在 enZINE の取り組みとしてすいたんのパンを開発中だ。千里金蘭大学の監修で、障がい者団体の方たちと商品開発を行っている。またグルメの点で市が直接お店を紹介するのは難しいが、吹田にぎわい観光協会に委託をして「吹田本」「別冊吹田本」を作成している。それには店舗紹介も一部している。

#### 【1年間をとおして、各委員の感想】

(委員長)

いままで出たご意見は、可能なものは事業に反映してほしい。  
本日で今年度のアドバイザー会議は最後なので、一人ずつ1年間とおしての感想等をいただければと思う。

(委員)

市民として吹田に住んでいたが、こうして住む以外の形で市に関わることができたので嬉しく思う。今後もワークショップがあるということなので、引き続き吹田市に関わっていきたい。

(委員)

市がシティプロモーションについて具体的にどう考えているかがよくわかった。未来に向けて動き出しているということが見えたので、これからもっと住みやすくなっていくのかな、と実感できた。

(委員)

シティプロモーションは幼児教育だと思っている。今後は幼稚園・保育園で子供たちが学べるようなプロモーションを展開できればいい。

(委員)

子供の時から育ってきた場所だが、委員になってから生活の中で吹田市の色々なところを注目するようになった。住みやすく健やかなまちになってほしい。また個人的にはふるさと納税を取り入れてほしいと思っている。すいたんグッズでもいいので、市外に出て行った人がまた吹田に住みたいな、と思ってもらえるようにしてほしい。

(委員)

シティプロモーションを地域にどう根付かせるか、地域の人をどう巻き込むかという視点で考えた方がよい。例えば、自動車のナンバープレートにすいたんのイラストを入れるとすいたんを目にする機会が増える。アドバイザー会議は専門性のある委員がそろっているのでいい会議だと実感した。

(委員)

企業で言うと、ブランド価値の創造をけん引するのがシティプロモーションだと思った。ブランド価値は市民一人一人が吹田で育ってよかった、今後も住み続けたいと感じることだと思う。来年度以降に向けては、80周年とどう結びつけてブランド価値を高めるかが大切。組織横断的な取り組みというのは企業でも難しいことだが、現代は非常にスピードが速く進んでいるので、

柔軟で機動的な組織になってほしい。

（委員）

委員のみなさんの率直なお意見はとても勉強になった。80周年に向けて頑張っていたいただきたい。

（副委員長）

シティプロモーションについて自分なら何ができるだろうと考え、4月に地元の事業者を集めてフェスをする事になった。主語が「自分」になるだけで意識が変わる。シティプロモーションの方針の一つとして市民が参画するという考えがあるが、一人一人がすいたんのグッズを持つ等、住むだけではなく、どんな行動があるのかを想像することが大切だと感じた。

（委員長）

課題をあげると、一つ一つのプロモーションのアイデアは面白いが、それぞれの取り組みがどのように結びついていくのかが見えない。取り組みの効果を次につなげるという、プロセスマネジメントをしていくことが大切だ。アドバイザー会議でも我々委員にどう意見をもらいたいのかがわからない。シティプロモーションの担当として、取り組みをどういう戦略で実施していくかがはっきりしていないからではないか。来年度以降、考えていただきたい。

またシティプロモーション推進室は市役所の中で発言力の強い部署であってほしい。シティプロモーション推進室が他部署に対して提案をして、それぞれの部署で実行してもらえるようになるべき。シティプロモーション推進室の実績があってこそ他部署に理解してもらえるとと思うので、発言力が高まるような取り組みをするべき。

アドバイザー会議については、それぞれの委員の専門性が高く、非常に有意義な会議だった。この会議で出た意見が言いつばなしになることなく市として受け止めていただくと同時に、我々委員もプロモーションに関わる役割を今後も担い、これからがスタートという気持ちでいたいと思う。